



かたいイシによる苦痛との戦い

会員 横山 裕一 (70 期)

1 2017年12月に弁護士登録をしてから1年が経過し、弁護士業務がいかなるものかということが少しずつ身体に浸透し始めた。頭での理解や整理は未だ追いつかず右往左往する毎日ではあるが、身体の方はリズムをつかみ始めたらしい。

登録直前、勤務先事務所にスペースを確保するため、記録を整理することから始まった。紙の詰まった段ボール箱は石のように重く、中腰の姿勢で車から出し入れする作業に大変な苦勞をした。

年が明けたあたりから事件を担当したり新人研修が始まったりと弁護士としての活動が本格化してきた。しかし、この頃からどうも腰に痛みを感じるようになり、長時間の打合せが次第に辛くなってきた。記録整理の時に腰を痛めたのであろうかと思えば、記録整理の様子を見たが、酷くなるばかりであったため整形外科にかかるも異常は見られず、経過観察することになった。その後、寝起きに中腰の姿勢が取れない、電車移動時の座席の振動が腰の痛みを誘発する、車の運転中に複数回痛み止めを飲む、というような日常生活への支障を生じるようになっていった。

2 腰痛に苛まれながらも5月のGWを満喫し終え事務所勤務していたときに変化が起きた。それは見事としか言いようのない、まごう事なき血尿で、初めての事態に混乱しながらもすぐに病院に行くことにした。ある人から「東京都医療機関案内ひまわり」というサービスを紹介され、電話で所在地・探している診療科を伝え、その日に診療可能な近場の病院を紹介して頂いた。やはり「ひまわり」とは何とも頼りになるサービスであろうか。

診察の結果、腎臓に3つの結石があることがわかった。いわゆる尿路結石というもので、腰痛の原因もおそらくこの結石であるとのことだった。

3 原因がわかりホッとしたものの、噂に聞く結石の痛みにおびえる毎日であったが、そのときは突然やってきた。7月の休日の朝に突然下腹部に刺すような痛みが走る。痛みの感覚からしてお腹を下しているのだらうと思いトイレを済ますも痛みが引くことはなく、むしろ増悪し始めた。ついには「痛い、痛い」とまるで怨嗟の声を吐き出すかのように苦しみの声を出し続け、ベッドの上でのたうち回った。結石があることを知らなければ確実に救急車を呼んでいたであろうが、悲しいことにこの痛みは堪えるほかないとわかっていたので、痛みが治まるまでの数時間を堪えた。2度目に激痛に襲われたのはお盆休み前、面会交流の立会い中であった。痛みの予兆を察知して早めに痛み止めを服用したもののそれで太刀打ちできるはずもなく、面会交流が終了し次第即座に帰宅し、そこから十数時間ほどまたのたうち回った。

数日後、結石はあっけなく体外に排出された。その大きさは約8mmで、まるでこの世の憎しみを結晶化し人体を傷つけるために誕生したかのような悪魔的な形状をしていた。



悪魔的な形状のイメージ

4 統計によると、男性は7人に1人の割合で罹患するようで、当会会員でいえば900人以上が罹患する計算となり、同じ経験をされた方も多数いらっしゃるはずなので、是非とも苦勞話を交換したく思う。

体内には未だ2つの結石が装填されており、固い意思をもって硬い石とともに歩む弁護士生活はもうしばらく続きそうである。